

優しさという力が、ある

第52回台湾金馬獎
最優秀オリジナル主題歌賞受賞
最優秀脚色賞・最優秀新人賞ノミネート

第17回
台北映画祭
観客賞受賞

第26回
シンガポール国際映画祭
オープニング作品

第8回
インドCMS国際子ども映画祭
最優秀長編映画賞受賞

太陽の子

Wawa No Cidal

ふるさとがあるから、
わたしは強い——
台湾でいちばん美しい村の物語



監督・脚本：チェン・ヨウチェ（鄭有傑） / レカル・スミ（勳暉・舒米） 出演：アロ・カリテン・バチラル（阿洛・卡力亭・巴奇辣） / シューイーファン（徐詣帆）
2015年 / 台湾 / 中国語・アミ語 / カラー / 99分 原題：太陽的孩子 日本語字幕翻訳：黒木夏兒 協力：台湾映画同好会 日本上映権授権者：野嶋剛
Add: Kaling Facilitator Dong Kaoyaw, Bahic, Kuba, Kaico Lalal, Boket Kasang. Presented by Filmosa Production. Producer CHENG YU-CHEH. Screenplay - Director CHENG YU-CHEH, LOKAL SUMI, CILANGASAN.
Production Manager HSIEH CHUN-YAO. Director of Photography LIAO CHING YAO. Gaffer HAKER CHU. Production Designer WU JO-YUN/LAL HSIANG-KUEI. Costume and Make-up Designer DONGI SAWMAH CIWIDIAN.
Director of Sound TU DUU-CHIH. Location Audio Mixers TU TSE-KANG/TU CHUN-TANG. Music SUMING. Editor LIU YUE-XING/CHENG YU-CHEH/LEKAL SUMI CILANGASAN. © Filmosa Production

松山特別上映会 & 野嶋剛氏講演会

台湾映画 太陽の子（原題 太陽的孩子 Wawa No Cidal）

ふるさとの土地を守るのか、リゾート開発で豊かになるのか。伝統と開発の間で揺れる家族と村の物語。2015年に台湾で公開され、大きな反響を呼んだ話題作。台湾に精通するジャーナリストの野嶋剛氏はこの映画に惚れ込み、日本でのプロモーションを行っており、上映後、映画の解説や台湾社会についての講演が行われます。すでに日本各地で15回以上の上映会を行って好評を博しており、日本でも多くのメディアに紹介されています。

日時 平成29年2月26日(日)13:30~16:30

場所 コムズ4階視聴覚室(三番町6-4-2)

料金 500円

主催 愛媛SGGクラブ中国語部

申込・問合せ masayoyamane@icloud.com

この映画上映会は、(公財)松山市男女共同参画推進財団の助成を受けております。

解説 野嶋剛

1968年生まれ。上智大学新聞学科卒。元朝日新聞台北支局長。2016年4月に独立。現在はフリージャーナリストとして、主に台湾や中国に関連する執筆活動を行っている。『台湾とは何か』(ちくま新書)、『故宮物語』(勉誠出版)、『ラスト・バタリオン 蒋介石と日本軍人たち』(講談社)など著者多数。